

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991100098	
法人名	社会福祉法人 芳寿会	
事業所名	グループホーム 真心の里	
所在地	山梨県都留市中央1-1-16	
自己評価作成日	令和3年1月6日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月25日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

都留市の中央に位置している谷村市域のグループホームです。近くには昔にある商店街、歴史のある小学校、町の中心である市役所などがあります。小学校の運動会、町で開催しているお祭り、自治会の開催するイベントなどに参加させてもらい地域との交流をしています。地域ボランティアなどが月に2、3度来訪してもらい、和太鼓や日本舞踊などをしてもらっています。現在はコロナ禍のため外出制限、面会制限を行っております。利用者が自分で出来ることは積極的に行ってもらい家事などをしてもらい、自立支援に繋がっています。併設している特別養護老人ホームの看護師、同法人内の施設住診医、及び地域の医療機関と連携し、医療サポートをしています。グループホームでの看取りについても受け入れを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は都留市の中央に位置し、周辺には小学校、裁判所、警察署などの公共施設や商店街がある利便性の良い場所にある。鉄筋3階建ての1階がグループホーム、2階、3階に小規模特別養護老人ホームが併設され、避難訓練や法人のイベント等を合同で実施し連携している。協力医や特養の看護師と連携し利用者は安心して生活している。小学校の運動会、自治会のイベント、町の祭り等に参加し法人の行事には地域の方を招いている。ボランティアの来訪が月に2、3回あり地域交流していたが、現在は行事を中止したり、面会自粛している。代替えとして家族には玄関スペースでガラス越しに面会し携帯電話で会話したり、毎月写真や手紙を家族に送り、利用者の様子を伝えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(コロナ禍以前) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を玄関、事務所などに見やすい場所に掲示し誰でも見えるようにしています。 職員同士のミーティングの際に基本理念に基づくサービスの提供について話し合っています。	法人の理念に基づき、「利用者本位のサービス、地域にサービスを提供する、職員の自己研鑽」を事業所理念として職員や来訪者の見える所に掲げるとともに、法人代表者会議や事業所の職員ミーティングで理念を踏まえたサービス提供について協議し支援に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域のイベント(お八朔祭り)等に参加しています。自治会から回覧板にて連絡をもらって地域のイベントなどにも参加しています。 ・地域ボランティアにも月2回程度きてもらい地域交流をしています。現在はコロナ禍のため行っておりません。	自治会に加入しており回覧版で地域の情報を得たり、運営推進会議で意見交換している。地域の清掃や祭りに参加し、法人の行事には地域の方を招いて交流している。ボランティアは概ね月2回来訪し、和太鼓、フラダンス、日本舞踊、マジック等で利用者の楽しみとなっている。現在は、回覧版や地域清掃は継続しているが各種の行事は中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進委員会を中心に認知症についての理解の支援を行っています。 ・回覧板などを利用して、地域の皆様の認知症についての相談などを受け付けています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進委員会では、現在のGHの運営状況、活動内容などを報告し、委員の意見や要望などを聞きながらサービス向上にいかしています。 ・施設の行事、地域の行事なども情報共有し、地域との連携が図れるようにしています。	2か月に1回開催し、地域包括支援センター担当者、民生委員、新旧自治会長、家族、法人総括、管理者が出席し事業所の運営報告、利用者の状況を基に意見交換している。現在、会議開催は中断しているが、電話にて市担当者や会議メンバーにコロナ対策や事業所状況を報告し、市からはクスターに関する助言を受けた。家族あてに個別の写真やたよりを送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の担当とは常に情報交換を密にとり、報告や指導、助言を受けています。 ・都留市開催の研修なども参加し、市の担当者とも顔の見える連携をとっています。 現在は電話、メール等で連携を図っています。	3か月に1回程度、市主催の看取りや高齢者の地域福祉等をテーマにした研修に参加している。事業所の運営状況や利用者の状況を伝え、助言を受け常に情報交換している。現在は電話やメールで連携を取っており、研修会は来月からリモート会議になる予定である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束委員会を立ち上げて拘束委員会会議などを開催し、活動しています。指針に基づいての活動、職員に研修などをおこなっています。 ・日々のケアでも職員同士が身体拘束につながらないように意見交換しています。	3か月に1回、身体拘束委員会を開催し、その後で拘束委員会の会議を開催している。研修会では拘束にあたる事例をもとに職員間で意見交換している。日頃のケアでは、スピーチロックに配慮した言葉掛けや行動制限しない関わりを意識し実践に繋げている。日中、玄関は開錠し、利用者の意向に応じて支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待については管理者、職員同士が話し合いなどを通じ、虐待に関する知識、認識を深め虐待防止に取り組んでいます。 ・虐待について気づいたこと話し合い、意見交換をしています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度については、職員が県、市町村の研修に参加したり、市町村の担当者と必要時に報告、連絡、相談をし情報共有をしています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、自宅訪問または直接施設に来てもらい、契約の締結、解約の説明、需要事項の説明をし、同意を得ています。 ・本人、家族に不安、疑問がある場合には納得に行くまで話し合いをし、理解を得ています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族の来所時にサービスの内容、日ごりの様子などを話をしています。その際には、家族、本人の意見やご指摘を組み上げるようにしています。 ・利用者、家族の意見、不満を聞けるように入口に意見箱を設置しています。	玄関先に意見箱を設置したり、家族が面会等で来訪する時に気軽に話が出来るようにしている。コロナ関連で利用者の運動、買い物、外泊に関する家族からの問い合わせが多く電話で伝えたり、直接の面会が困難なため玄関先のスペースでガラス越しで面会し、携帯電話で会話できる工夫をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年2回全スタッフに対してアンケートを実施し、管理者と面談を行っています。管理者との面談は個々に必要に応じて行っています。 ・毎月法人全体で代表者会議を開催し、職員の意見を反映できるようにしています。	職員は年2回のアンケートを基に管理者との面談を行っている。それ以外いつでも管理者に相談できる関係を築いている。毎月法人全体の代表者会議が行われ、備品等も含め運営に関する協議を行い職員の意見を反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年に2回施設長の面接に実施で、努力目標や実績評価、業務の要望などを聞き取り等を行っています。 ・法人全体で勉強会などを開催し、向上心を失わないように楽しく働けるように努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部の研修の参加および内部の研修(認知症研修、感染研修などに)参加しています。 現在はコロナ禍の大人数での研修は行っておりません。 ・資格試験には資格取得のための研修費を負担しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修時には他施設職員、ケアマネージャと積極的に交流し、意見交換をしています。 ・他施設の訪問を受けたり、意見交換をしたりしています。 現在はコロナ禍のため行っておりません。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・管理者が自宅、他施設に訪問し、現在本人が困っている事、不安に思っている事を伺っています。入居前には直接施設に来てもらい、いろいろな相談を受けています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前に管理者が家族が困っている事、不安に思うことなどを、施設に来てもらい、直接伺っています。 ・家族との連絡を密にし、家族に不安、要望などを傾聴し理解しながら安心して頂けるように配慮しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・見学、相談際には介護サービス利用に向けて不安や相談を受けています。 本人家族に寄り添った介護サービスの提案をしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者、職員が「ともに生活する」という考え方で、介護するのではなくできないと懲りだけ手伝いをするケアをさせてもらっています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者を中心に家族、職員が密に連携をとりお互いの思いを共有しながら支援しています。 ・家族とに絆が深まるよう積極的に外出、外泊を支援しています。 コロナ禍のため外出、外泊は行っていません。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・近所になじみの商店街に出かけたり、馴染みの理容店、八百屋を利用しています。 ・馴染みの人との面会を積極的に支援しています。 コロナ禍のため行っていません。	商店街や八百屋での買い物や理美容院に行くことで入居前からの馴染みの関係が継続している。また、来訪者の受入れも自由に行っている。現在は、面会や外出自粛の為に困難ではあるが、電話や手紙で友人との連絡を取り馴染みの人との関係を継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が密になり、支え合えるような支援に努めている	・利用者の尊厳、生活歴、個々の生活などを考慮しながら利用者同士が良好な関係が作れるように支援しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所された利用者は、同法人内の特養入所が多いので情報共有、連絡、相談を行っています。 ・退所後のご家族の相談も行っています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いや生活歴把握しながら職員同士話し合いを持ちながら支援しています。把握が困難な場合には管理者、職員が話し合い本人に合ったケアを検討しています。	入居時の本人の意向や希望に沿った支援を行い、その後変更することがあれば協議している。意向の把握が困難な場合は表情や態度等から把握し、家族の意見も参考にすることで職員間で協議し、本人の意向を踏まえた支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族に情報、本人の何気ない会話からその人がどのように生活していたかを把握しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人の日々の過ごし方、心身の状態等を観察し、その都度記録しています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の職員同士のミーティング、担当者会議等で意見、アイデアを出してもらい介護計画に反映しています。	入居時に本人や家族、関係者から把握した意向を基に介護計画を作成する。1ヶ月位様子を見て必要に応じて変更している。その後も1ヶ月毎にモニタリングし、経過を見ている。申し送りやケア記録から変更が必要な場合は本人、家族、ケアマネージャー、管理者等で検討し結果を報告している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の生活の様子や特記事項などは介護記録に記入し、その情報を基に職員同士が情報共有、意見交換し介護計画を見直しています			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、ご家族の希望を取り入れ、その状態に応じたサービスの提案をしています。 ・本人、家族のニーズに対応できるようにしています。特に医療連携などは積極的に行っています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近くの馴染のある商店街に出かけたり、レストランなどに食事に出かけています。 ・月に2.3度に地域のボランティアにきてもらっています。(和太鼓、日本舞踊など) コロナ禍のため行っておりません。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の意向が添うように、往診医、専門医と連携を取りながら支援しています。 ・家族、本人の意向により現状は施設の往診医(内科)が主治医となり支援しています。	半数以上の利用者が協力医の訪問診療を週1回受けている。他の方はかかりつけ医を家族の送迎で受診している。家族が出来ない場合や緊急時は職員が対応している。併設の特養と連携しているため、日中や夜間も特養の看護師が相談にのり管理者とともに対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々、併設の特養看護師と連携を取りながら適切な看護、医療が受けられるように支援しています。 ・往診医と連携をとりながら医療的な支援をしています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時は各医療機関のSWや看護師と情報共有し、連携しています。入院時もケアマネが病院を訪問し、本人、家族の要望、相談に乗っています。 ・近隣の各医療機関のSWとの関係作りを行っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合、終末期のありかたについて入所時に事業所としての方針を説明しています。また、家族の考え方についてもその都度確認しています。 早い段階から終末期の方針を情報共有し病院移転や特養の転居などを提案し、支援しています。	入居時に重度化や終末期の説明をし、本人、家族の意向を聴き相談している。特養への申込みも案内している。本人の体調変化や健康面の状況から必要な場合は家族、医師、管理者等で情報共有し、方針を協議している。事業所での終末期を希望した場合は、医師、看護師、職員が連携し安心して過ごせるように体制を整え支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・利用者の急変や事故発生に備えて、適切な応急処置や救急対応ができるように話し合い対応しています。 ・緊急時には同施設内の職員にも応援してもらうように体制を整えています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災を想定した訓練を併設の特養と年2回避難訓練を行っています。夜間を想定した「避難訓練もGH職員で実施しています。	併設の特養と合同で年2回避難訓練を実施し、グループホーム独自でも3か月に1回避難訓練を実施している。夜間想定訓練は日中職員が一人の体制で行い、利用者の避難誘導を実践している。備蓄や停電時の自家発電も整っている。福祉避難所について、市と検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者ひとり一人の人格を尊重して利用者のプライドやプライバシーを損ねないような言葉使いをしています。 ・ケアファイルは外部の人の目が見えないようにしています。	言葉遣いに配慮し、呼称にも気を付けているが家族や本人の希望があればそれに応じている。年2回職員アンケートを実施し、自己評価している。管理者は結果をまとめ管理者との面接時にフィードバックしている。個人ファイルや引き継ぎ書類は目に触れないように保管している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・様々な場面で、本人の意思決定が出来るような声掛けおこなっています。本人の意思を尊重してケアを行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者本位の日々の暮らしができるようにケアしています。利用者がやりたいこと、出来ることを職員同士が意見交換しながら日々の暮らしを送っています。			
39		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等は家族に協力してもらい馴染の衣服、おしゃれな衣服を用意してもらっています。 ・出張販売などを利用してもらっています。 現在は出張販売はコロナ禍のため行っておりません。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ミニ菜園で収穫した野菜、家族、職員が持ってきてくれる野菜等季節に応じた旬の食材を提供しています。 ・食事のかた付けなどは、利用者が率先して手伝ってくれます。 ・献立はその日に利用者が食べたいものを作るようにしています。	ボランティアでミニ菜園に苗を植えてもらい、利用者が水やり、草取り等を行い育てた野菜や家族、職員が提供した旬の食材を使って調理している。献立は利用者職員でその都度決めている。季節の行事食や誕生日、利用者の希望に応じた食事を提供している。利用者も調理、配膳、片付け等を職員と共に食事作りを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者ひとり一人に応じた食事量を提供しています。利用者の体調に応じたキザミ食、お粥など提供しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食事後の口腔ケアの口腔ケアの声掛けを行っています。 歯磨き後には職員が歯磨きチェックをしています。 ・必要に応じて協力歯科医の往診を行っています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄の失敗が無い様に一人一人に合わせた排泄パターンを把握して誘導を行っています。	ケア記録表に記入し利用者ごとに排泄パターンを把握し、事前に誘導してトイレでの排泄を促している。各居室にトイレが備えてあるので落ち着いて使用できる。ポータブルトイレや布パンツ、リハビリパンツ等で排泄支援し利用者もトイレでの排泄に取り組み、オムツ使用者はいない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・定期的に自然排便が出来るような適度な運動、食事、水分摂取を行っています。 ・便秘がひどい場合には、看護師、主治医と相談しながら対応しています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・週2回と決めているが、本人の希望があれば入浴したいときに入浴してもらっています。	月～日の午後の時間帯に入浴している。利用者は週2回程度入浴しているが、その時の希望に応じて変更している。入浴を拒否する場合もあるが、タイミングをみて入浴できるように促している。シャンプー等は共用であるが、希望があれば個人の使いたい物を用意している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		・一人一人の生活習慣に合わせて、本人のリズムに合わせて静養してもらっています。特に消灯時間は決めておらず本人のペースに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		・確実に内服できるように職員全体が薬の目的などを理解して介助しています。 ・体調の変化が見られた場合には、主治医に連絡し、指示を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		・季節の行事やボランティアなどを活用して楽しみ事を支援しています。 ・日々の仕事に張り合いがあるように出来ることを探して、家事手伝い、ウエス作りなどを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるよう支援している		・場所柄なりにげなく外に散歩できる環境なので、希望により近くの小学校、商店街等に行き地域の皆さんとあいさつしたり、会話をしています。 現在は外出制限を行っております。	商店街での買い物や小学校の散策、桜の見物等事業所周辺に外出できる場所がある。また、職員や家族と買い物や受診する折には外食を楽しむこともある。現在は、外出自粛で制限がある為買い物や外食は困難になっているが、事業所周辺の散策やドライブで気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している		・金銭は基本的に管理者が行っているが、本人希望家族の了承によりお金を所持している利用者もいる。 ・近所の商店街では職員と一緒にいき、個人で支払いすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		・手紙や電話は自由にできるよう支援しています。 ・事務所の電話などを利用し、本人の希望があれば自由に連絡が取れるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		・季節感を感じられるような作品を利用者と一緒に作成しています。利用者が快適と感じられるように音、温度明るさに配慮しています。	玄関を入るとキッチンと生活協同室がありワンフロアになっている。広い廊下を挟んで居室がある。利用者はフロアで過ごすことが多く、共同作品、習字、貼り絵、行事写真等を飾り来訪者にも利用者の生活や活動の様子がわかるようにしている。室内は湿度や温度が居心地良く管理され、職員が清掃して清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		・共有スペースでは気の合った利用者同士でゆっくり過ごせるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		・自宅で生活しているように、本人自宅にあった家具、馴染みの物を持ってきてもらい自分らしい居室にしてもらっています。	居室にはトイレ、洗面台、ベッド、寝具が備付けてある。カーテンは各自で用意しているが、防炎加工の物を依頼している。トイレと洗面台は広く、車椅子対応になっている。タンス、椅子、写真、電子オルガン等利用者一人ひとりの馴染みの品が持ち込まれている。自分で清掃する方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		・建物内は全面バリアフリーになっています。トイレ、廊下、浴室には手すりがついています。		